

題材名		一条の星 < 総時数 7 + 2 >										
題材の目標 (目指す生徒像)		表現										
		鑑賞										
学習課程	時	ねらい	主な学習活動・内容	指導上の留意点	関	発	技	鑑	評価の場面	具体的評価規準(評価方法)	評価基準 (A 評定・B 評定)	
導入 スケッチ 発想 構想	1 2	・自分が表現したい表現を考え、ワークシートに記入させ、スケッチすることができる。。	・自分が表現したい形や色を想像し、スケッチする。  ・絵画的表現 ・立体的表現	・自分の作品がどんな形になるのか、最終形をよくイメージさせる。  ・スケッチはあくまで、形を捉えるラフスケッチにとどめる。必要に応じて色も考えさせる。  ・色数は制限しない。					スケッチをしている様子、そのスケッチ。	関：手を動かさず、集中してスケッチをしている。(観察)	A	集中して、いくつもアイデアを出している。
										発：感情に合った形や色を独創的な発想でスケッチしている。(スケッチ・ワークシート)	A	自然に合った色や形を考え、自分の力で構成している。また、飾るイメージまで考えている。
											B	集中して、1～2つはアイデアを出している。
											B	自然に合った作品が考えられている。
実技 再 構 成	3 4 5 6 7	・自分の思いを形や色で制作することができる。	・制作をする。  ・立体 ・半立体	・材料の選択を工夫させる。 ・大きさは両手に乗るサイズを原則とする。 ・自分のテーマを持って進められるよう、アドバイスする。 ・抽象、具象を問わない。 ・漫画等は避けさせる。  色や形を発想させる作業プリントを行いながら、確認させる。					作業をしている様子と作品。	発：中庭に置かれた自分の作品のイメージを持ちながら、自分がイメージする作品ができている。(観察)	A	中庭に飾られる様子を想像しながら、形や技法、色などを考えながら独自の制作ができる。
										技：材料の特徴を生かし、用具を工夫して制作できている(観察・作品)	A	貼る、折る、切るなどの技法を十分に活用して制作している。
											B	形や色などを工夫しながらオリジナルな表現ができている。
											B	上記の3つの技法のうち、どれか一つでも生かして制作している。
発表 深化 評価	8 9	・制作した作品を中庭に飾り、鑑賞しながら客観的に友だちの評価ができる。	・作品を中庭に飾り、写真に納めたり、鑑賞したりする。	・できるだけヒントを与えずに、生徒によく考えさせる。 心ない発言が出ないように、真剣で和やかな雰囲気をつくる。  ・活動をよく振り返らせるようにさせる。 ・自分の感情や内面を表現することに、自然のものや色が使えることに気づかせる。					友達の作品をよく見ている様子。また、意見を述べている。(観察・ワークシート)	自分の表現が見る相手に伝わっている。また、友達の作品から共感をおぼえ、愛着を持って意見交換ができている。(観察・ワークシート)	A	友達の作品を通して、自分の作品を振り返り、良い点、悪い点分かる。また、工夫の仕方について学び取っている。
											B	友だちの作品の良いところに気づくことができる。工夫したところに気づくことができる。